



SSKW すてっぷ だより

編集 社会福祉法人すてっぷ すてっぷ後援会

〒379-2164群馬県前橋市東上野町136番地1

TEL 027-290-6161 FAX 027-290-6162 <http://www.s-step.com> w-step@s-step.com

No.26



平成18年度 すてっぷ後援会活動開始!

自立支援法に負けないで

サポーターの輪を広げ、つながりを強めよう!

去る4月18日にすてっぷ後援会総会が無事終わりました。

事業報告の中で昨年度は300万円の寄付が(社福)すてっぷになされたことが再確認されました。寄付は運営の厳しいグループホームRUNと、授産施設ぴいすのパン窯購入に充てられました。現在グループホームの利用者さん方は元気に生活され、ぴいすのパンの売上也順調に伸びているとのこと。改めてみなさまのご協力に御礼申し上げます。

さて、障害者自立支援法が施行された本年度は、利用者、施設ともに経済負担が増加し、たいへん厳しい状況がすでに始まっております。地域福祉を後退させないためにも、逆風に立ち向かってサポーターのつながりを強め、一人でも多くの仲間を増やしていくことがこれまで以上に大切だと考えております。

そこで、今年度の後援会事業といたしまして、交流をかねて皆で楽しむ手話コンサート『オープンハートコンサート』(9月)と、『第6回チャリティーアート展』(12月)を予定いたしました。どうぞ様々な形でご参加いただき、つながりを深めてまいりましょう。新しい出会い、体験、喜びが見つかることがきっとあると思います。そして「誰でもが輝いて暮らせる社会」を目指して、皆でサポーターの輪を広げてゆきましょう。

すてっぷ後援会
会長 猿木素子



↑ ↓ 県立女子大パン工房



平成18年度新役員

会 長	猿木 素子
副会長	竹内 有紀
書 記	糸井 恵子
	白石 春枝
	入間川 典子
	田中 久子
会 計	善方 明子
	高野 智代
	本山 朱実
監 事	茂木 幸子
	宮内みどり

すてっぷ後援会総会とあわせて、北欧視察報告会がおこなわれました。北欧視察につきましては、すてっぷだよりで連載という形で報告を行ってまいります。

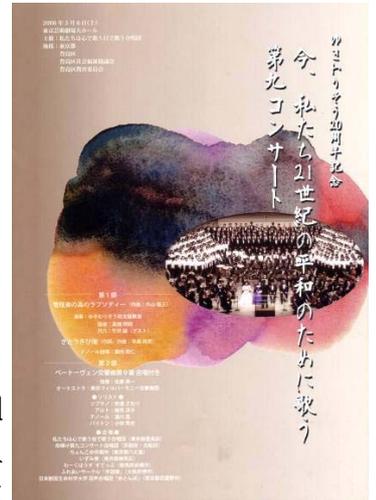
平成18年度後援会費の納入をお願いします!

年会費1口 1,000円 2口(2,000円)以上 何口でも!!

感動の第九コンサート

‘06.5.6 in 東京芸術劇場

今私たちは21世紀の平和のために歌う第九コンサート



‘06年5月6日土曜日午後2時、わーくはうすすてっぷの皆さんが1年かけて取り組んだ大ステージの幕が開きました。場所は池袋にある東京芸術劇場の客席2000人の大ホール。演奏は東京フィルハーモニーオーケストラ。生の演奏でソリスト4人と



本番終わって思わず笑みが

共に第四楽章を歌ったのは、障害のある人無い人合せて全部で250人。ソプラノ、アルト、テノール、バスパートが合わせて100人、残りの150人が私たちの歌う第五パートです。ベートーベンには書いていないパートで、障害者が歌いやすいように他の4パートから抜き出して作られたパートです。その150人の中の20人としてわーくはうすすてっぷの方々立派に舞台を努めることができました。

このコンサートは「今、私たち21世紀の平和のために歌う第九コンサート」として、これまで15年間第九を歌い続けてきた東京の障害者福祉施設 ゆきわりそうの20周年事業として企画されたものです。これまでのゆきわりそうのステージに刺激をうけて合唱を始めた合唱経験者の5団体と一緒に何とか同じ舞台に立てたのは、昨年4月から本番まで1年間継続して練習をした成果であり、舞台に立って第九というものを歌ってみようかという1人1人に挑戦する気持ちがあればこそその結果に他なりません。

合唱はすべて初めてからの出発でした。腹式呼吸も、発声練習も、もちろんドイツ語も、何もかも初めて。20分を超える合唱をドイツ語で歌詞とメロディを覚えて2000人の観客に届くように歌い表現するには、1年間は決して十分な時間ではなかったかもしれません。それでも心で歌い目で歌う合唱は、あの日のあの時、ステージに上った全ての人と、客席で聴いてくださったお客さんと、そして、カンパを含めて気持ちよく応援して頂いた方々の気持ちがホールの中を満たして、それぞれをそれぞれの感動へ導いたことは事実です。お金を払っても聞きに来てくださるお客さんに、伝わるように歌いましょう、感動を届けられるようにしましょうと練習してきましたが、それ以上に、歌う者にも大きな収穫をもたらしたのが、第九でした。



もうすぐ出番です

最後に第九を書き残してくれたベートーベンにも感謝。ご指導頂いた先生からのメッセージにもありました。「細く長くでも、この第九という財産の火が消えない事を切に願っています。」この経験をぜひ次に繋げて行きましょう。

末筆ですが、ご協力頂きましたカンパの合計金額は、129,474円でした。実行委員会へ送りましたのでご報告させていただきます。各方面よりのご協力をありがとうございました。

すてっぷ第九を歌う会 担当スタッフ 高橋あい



本番前、衣装に着替えて、参加者、家族、スタッフで

第九コンサートを終えて

安藤 昭司

5月6日、僕たちは東京にいた。第九コンサート出演のためだ。
 午前中に着替え、リハーサルの開始だ。
 スタッフに車椅子ごと抱えられ、舞台上った。
 その時俺は”どうしてこんな俺が、ここにいるのか？”信じられなかった。
 そして伴奏が始まりいよいよ歌の始まりだ。
 皆が、歌った、すごい迫力だ、前にはオーケストラ、大合唱団は250人、すごい、すごい、俺は感動で涙が出てきた、いままで、日陰者だと思っていたのに、
 スポットライトを浴び、会場の大きさに度肝を抜いた。
 リハーサルが無事終わり、休憩タイム。もちろん、タバコだ。3,4服吸ったかな？
 本番の時間が来た、緊張はしていなかったがトイレのことが気になった。
 本番になると、トイレのことはすっかり忘れ、無事歌い終わった。
 会場からすごい拍手だ、ソリストの皆さんも前に出た、またすごい拍手だ、また涙が出てきた。柄に似合わず。
 そして本番も無事終わった。練習を1年続けた意味がやっと解った。本番前の練習は週3回だ。
 もうやめてとしいたかった。
 今思うことは、いい経験をさせてもらった。今度機会があったら、ぜひ参加したいです。
 あいさん、スタッフ、関係者の方々本当に有難うございました。
 そして表現することが、こんなに大切に素晴らしいことを、知りました。



歌い終わって楽屋にもどる安藤さん

このことは、書こうか書かないか迷いましたが、表現することを、決めました。
 私は、神経難病です。進行性です。発病して13年経ちます。
 この期間は、苦しいことの連続でしたがすてつぷに通い始めてから、大分変わりました。
 昔は、もがいてばかりいましたが、今は自分らしく生きることしか考えていません。
 音楽は昔から好きで小学生の時から、ROCKを聞いていました。今でも楽団を作り、活動しています。
 音楽のいい所は、誰でも楽しめるところです。



♡カンパをありがとうございました♡

缶募金の合計金額 129,474円

ゆきわり草に送りました。

- ・清水 剛様 10,000円
- ・茂木佐智代様 5,000円

一緒に第九を歌いませんか！



大舞台を終えてホッとしました。

私達と一緒に第九を歌いたい方は
 いらっしゃいませんか？
 第九を歌うメンバーを募集中です。

連絡先 社会福祉法人すてつぷ
 電話027-290-6161
 w-step@s-step.com



歌い終わって拍手の中楽屋にもどりました。

就職おめでとうございます!



わーくはうす すてっぷ、パン製造販売班の 中村敏夫さんと清水和子さんが就職!!



中村さんは、昨年10月1日にヤマト運輸とメール便配達の個人契約をしました。

メール便はどんな悪天候でも関係なく、その日の内に配達を終えなければなりません。責任という面でも体力的な面でも思っていた以上にきつい仕事です。中村さんも独立してやっていこうかどうかを迷っていましたが、障害者自立支援法の施行で自己負担が発生する事なども考えて気持ちを決めました。

その後は独立するという目標に向けて、メール便の仕分け、配達ルート作成、配達等、どうしたらうまくできるかをスタッフと一緒に試行錯誤しながら配達を行いました。

そして6ヶ月の訓練を経て、正式にヤマトと個人契約をしました(メール便の個人契約は、3ヶ月更新、土日の連休不可)。6ヶ月という短い期間で就労に至ったのは、担当する配達区域が土地勘のある自宅周辺であったことも大きな要因でした。

中村さんは今日も元気に自転車でメール便を配達しています。



清水さんは5月16日にカインズパッケージセンターへの就職が決まりました。

本格的に就職活動を始めて約2年。わーくはうす・すてっぷと障害者職業センターの職業カウンセラーと協力して支援し、就職促進会への参加や昨年は6・7月の2ヶ月間障害者職業センターへ毎日実習に通い訓練を受けました。昨年冬の就職促進会のあとでカインズPCセンターの人事課の方から就労前実習をして就職を検討したいとお話をいただき、今年の3月13日から1ヶ月間実習をして、その後4月13日からはトライアル雇用、5月16日付けで契約となりました。

まだまだこれからがスタートですが、まずは清水さんの頑張りにみんなで拍手を送りたいと思います。今後も応援していきます。



2006年4月

ぴいあしょっぷ OPEN!

(県立女子大学購買)



昨年のぴいすきっちゃん(学食)の開始から9ヶ月!!
今度は購買も授産活動の一つとして運営させて頂けることとなりました。

お店の名前は”ぴいすしょっぷ”新しい利用者さんも2名加わり、健康をテーマに焼きたてパンと手作り弁当を毎日学生さんに提供しています。その他、低カロリーインスタント食品やお菓子、エコ文具なども販売していて、学生さん達に気軽に利用してもらえる明るいお店になっています。一人暮らしの学生さんが多いので、健康を第一に考え、カップラーメンなどは一切置いていません。その甲斐あってか、パンやお弁当が大人気で、毎日大変賑わっています。学生さんの楽しい大学生活を支えていけるようなお店作りを目指していきたいと思ひます。



あてっぷスウェーデン・デンマーク視察研修実施

2006.3.4~3.12

ノーマライゼーションの国の障がい者福祉をみてきました。

今から13年前、OPEN HOUSE すてっぷのスタッフ5人とボランティア1人でノーマライゼーションの国の子供達の生活を学びたくて、正月あけの1月にデンマークとスウェーデンを視察しました。この時に見て、聞いて、感じた『本場のノーマライゼーション』がすてっぷの活動の支えになってきました。



7年前に社会福祉法人になり、わーくはうすすてっぷを開設、職員もずいぶん増え、(常勤36人、非常勤48人)活動も広がりました。

そして、今、障害者自立支援法という大きな波が私達の思いを呑み込もうとしています。そんな時だからこそ、「本当にノーマライゼーションが実現できているんだよ」とスタッフに伝えたくて、年度末の忙しい3月でしたが、視察を計画しました。百聞は一見にしかず、ノーマライゼーションの風(3月でマイナス5℃と耳が痛くなるほどの寒い風でしたが)にあたって、新たな目標と確信をもってもどったスタッフのこれからに期待したいと思

最後の視察先のグループホームで います。

研修にあたりご協力いただいた利用者さん、ご家族の皆様、ありがとうございました。

心より御礼申し上げます。

また後日、報告集の作成と研修報告会を予定しておりますので、よろしくお願い致します。

わーくはうす すてっぷ
施設長 鈴木隆子

日程	発着地/滞在地名	視察先
3月4日	成田空港 ↓ コペンハーゲン	出発 機内泊
3月5日	コペンハーゲン	自由行動
3月6日	イエテボリ	リンドーメ知的障害者デイセンター
		重度障害者とコミュニケーションする手段を探す施設エルドラード
3月7日	イエテボリ	ムーンダール自治体の自閉症児ショートステイホーム
		リハビリ関係の特殊な教育用補助器具の紹介をしているDATA
		ブレッケの児童・青年リハビリ部門
3月8日	イエテボリ	バリシュー区の知的障害者運営のカフェ
		アンゲレード高校にあるブレッケ所属の障害児を対象とした高校と寄宿舎
3月9日	イエテボリ	特別養護学校ゲールスゴースコーレン
	コペンハーゲン	知的障害者の余暇活動ラヴック
3月10日	コペンハーゲン	コペンハーゲン市営知的障害者作業所サンドトフテン
		グループホーム・ソルスキン
3月11日	コペンハーゲン	機内泊
3月12日	成田着	帰国

北欧 Report

特別養護学校

ゲールスゴースコーレン (デンマーク・コペンハーゲン)

報告担当者 : 中沢 小百合 (サービスステーションすてっぷ)

松井 智紀 (グループホームRUN)



ゲールスゴースコーレン

<概要・説明>

生徒数は約100名で、学童保育所・寄宿舎・ショートステイ施設も併設されている。

生徒は、運動障害・精神障害を抱えている方が多く、視聴覚・聾唖学校のセクションもある。

1) 養護学校

対象 : 身体・知的・視覚・聴覚の障害を持つ児童(6歳から18歳)が通学。

クラス : クラスの人数は1クラス5~6人で発達段階や年齢によって分けられており、職員は1クラスに教師2人、保育士2人、補助スタッフ1人の5人体制。

授業 : 他の公立学校と基本的には変わらないがそれぞれの生徒の知的・運動レベルに合った授業・カリキュラムが組まれている。また、生徒たちはそれぞれ1年間の目標をつくり授業を受けている。その中に達成目標(コミュニケーションに関するもの、社会性、運動機能に関すること)をつくり、半年に1回保護者も交えて3者面談を行ない、修正・変更等を行なう。

2) 学童保育

開所時間 : 8:00 ~ 17:00 (8:15~14:00の間は学校にて授業)

活動内容 : 基本的には個々に好きなことをして過ごすのが、毎月テーマを決めた活動も行なっている。例えば、1月は「ファッションショーをしよう!」ということテーマにメイク・ウォーキング・仮装などをし、実際にショーも行なった。現在(3月)のテーマは「ロールプレイ」で物語や出てくる登場人物を決め、劇のようなものを行なうことを予定している。今後、夏までのテーマとしては「キャンプをしよう」や「木登りをしよう」というテーマで活動を予定している。

※ 学童の職員は、日中授業の補助職員として学校に入っている。

学校も学童も大きなくくりであり、分けられていない。

3) 寄宿舎

8名が利用中。個室。各部屋のレイアウトは可能な限り入居者自身が行なっている。利用に関しては、月~金は入居セクションで過ごし、週末は自宅に戻ったり、3ヶ月という期間を決めて利用する子もいる。

4) ショートステイ

両親が出かけるとき等に利用できる。



寄宿舎共有スペース



寄宿舎個室

<質疑応答>

1) 学校

Q: 成年学校とは ?

A.: 別名 ユーススクールと言い、高校の代わりのようなもので将来独立自立するための準備を行う。義務教育が終わると普通高校へ進学するが、ここの学校の生徒は成年学校へ行く人がほとんどである。年間で約40週通い、1/3は授業、残りの2/3は生活訓練・実習・体験入所等を行なう。



寄宿舎の共有スペースでチャットを楽しむ生徒

2) 学童

Q: 今後の活動テーマに「車イスを使った木登りをしよう」というものがあつたが車イスを利用している学生はどのようにして参加するのか?

A.: 木と木の間にロープをつるして、一方の木に滑車をつけて行う予定。座れない子もシートベルトをつけて挑戦する。

Q.: さまざまな障害を持つお子さんが学童を利用しているようですが、介護度によって活動は、変わってきますか?

A.: 介護度が高い子供は、五感を刺激するような活動をする。年齢もさまざまであり、年齢が高くなってくると好みもあるので音楽活動やチャットしている子供もいる。

<見学>

- ・校内はとても広く、車イスでの行き来がスムーズに行なえるようになっていいる。また、全体として陽が入り明るい感じ
- ・廊下等には車イスがいくつも並べられていた。車イスは市から支給されており、1人で2台所有している子もいるらしく、用途により使い分けていた。
- ・授業などではパソコンが多く使用されていて、コミュニケーションや学習の際に重要なツールとして確立されていた。

<感想>

学校と学童が併設されていて、学童のスタッフが補助職員として授業に入っているためか、職員同士協力体制がよくできているように感じた。大切なのは、子供が楽しく通学すること。子供たちに対して本人が生活しやすいように道具を使ったり、配慮しながらも肩の力を抜いた生活がうかがえた。

印象的だったのは学童の活動での、今後のテーマ「車イスを使った木登り」。木に登ることはどの子も一度は挑戦してみたいことだ。車イスを使ったというところがなんともステキな発想だ。ここの学童の子供たちは、車イスでも外で元気に遊ぶとのこと。スタッフの話では、「車イスが障害物になるとは考えない。一体となって遊べる方法を考える。プールでもみんな荒っぽいあそびをします。」と当たり前のように言っていた。

デンマークと日本、国は違っても子供たちがいろんな発想をすることはかわらないはずだ。子供たちがあきらめてしまうことのないように私たちが頭を柔軟にして、発想を実現できる手伝いをしたいと思った。以前にクラブで車イスの子供たちが夕方暗くなるまで公園で遊んでとても楽しそうだったことを思い出した。私たちが経験してきた子供らしい楽しかったことを当たり前のように子供たちとかかわっていきたいと思った。



三輪自転車



生徒の車椅子

映画会します

研修会「障がい者の自立を考える会」の中で「もっこす元気な愛」の上映を行います。



4年前、哲也と美穂は友人の結婚式で出会った。しだいにふたりは、互いを心の支えとして愛し合うようになり、結婚を考えはじめたのだった。

しかし、美穂の母は猛反対して認めようとはしない。その理由は、哲也が脳性まひで両腕を思うように動かすことができない身体障がい者だから。

哲也は、手の代わりに足を器用に使って何でもこなす。食事はもちろん、携帯電話でメールを打ったり、パソコンを使って仕事をしたり。そして、自動車の免許取得にも挑む。中古車を購入し、足で運転できるように改造して、教習所に持ち込む。しかし、免許が取れる補償はない。「自分でやろうと思って、途中で諦めたら、彼女のお母さんに対しても、認めてもらうことを諦めてしまうことにもなるんじゃないかと思った」

なんでん やって
みんなとわかんたい



研修会 障がい者の自立を考える会
日 時 7月22日(土)
第1回 10:30~12:00
第2回 13:30~15:00
第3回 18:00~19:30

場 所 前橋市総合福祉会館多目的ホール
前橋市日吉町2-17-10

参加協力券 ¥1,000

問い合わせ わーくはうす すてっぷ
担当：新井、阿部

〒379-2164 群馬県前橋市東上野町136-1
TEL 027-290-6161 FAX 027-290-6162
e-mail pc@s-step.com

バリアフリー上映

音声解説と日本語字幕がつきます。耳や目の不自由な方もお楽しみ頂けます。車椅子の方のご観覧も大丈夫です。



この映画は実話です



※「もっこす」とは、自分の信念を曲げない頑固な熊本の人

もっこす元気な愛公式サイト <http://www.2942.jp/>

♥ ありがとうございます ♥

平成17年度NHK歳末たすけあい配分金でグループホームRUNのダイニング5点セットとソファベッド及び、灯油ファンヒーターを整備致しました。ありがとうございました。



・わーくはうす すてっぷ	〒379-2164 前橋市東上野町136番地1	TEL 027-290-6161
・ヘルパーステーションすてっぷ	〒379-2164 前橋市東上野町136番地1	TEL 027-290-2233
・サービスステーションほっぷすてっぷ	〒379-2164 前橋市東上野町136番地1	TEL 027-290-2240
・メゾンすてっぷ	〒371-0004 前橋市亀泉町3-83	TEL 027-269-7444
・前橋市障害者生活支援センター	〒379-0017 前橋市日吉町2-17-10	TEL 027-236-0001
・知的障害者小規模授産施設とらっぱ	〒371-0017 前橋市日吉町2-17-10	TEL 027-219-2525
・グループホームRUN	〒371-0017 前橋市日吉町2-29-4	TEL 027-234-3321
・社会就労センターぴいす	〒371-0032 前橋市若宮町4-2-17	TEL 027-236-0303
・サービスステーションすてっぷ	〒370-3523 群馬郡群馬町福島782-1	TEL 027-372-3456

発行人 特定非営利活動法人 障害者団体定期刊行物協会 〒157-0073 東京都世田谷区砵6-26-21

編集人 社会福祉法人すてっぷ すてっぷ後援会 〒379-2164 群馬県前橋市東上野町136-1

Tel 027-290-6161 Fax 027-290-6162

www.s-step.com w-step@s-step.com

定価100円